生涯発達における自己の諸相 (15)

— 人生の意味の源における「探求 (追求)」と「保有 (実現)」の 2 側面の検討 —

○浦田 悠¹・亀田 研²・谷 伊織³・福井 齊⁴・並川 努²・

榎本博明⁵・大西将史³・中谷陽輔⁶・三保紀裕⁴・渥美純子⁵・田中道弘⁷

(¹京都大学・²名古屋大学・³浜松医科大学・⁴関西大学・⁵名城大学・⁶同志社大学・⁷埼玉学園大学)

キーワード: 人生の意味, 意味の源, Important Meaning Index (IMI)

Some aspects of self in life-span development (15): “Search” and “presence” of sources of meaning

Yu URATA¹, Ken KAMEDA², Iori TANI³, Hitoshi FUKUI⁴, Tsutomu NAMIKAWA², Hiroaki ENOMOTO¹,
Masafumi OHNISHI³, Yosuke NAKATANI⁵, Norihiro MIHO⁴, Junko ATSUMI¹, and Michihiro TANAKA⁶

(¹Meijo University, ²Nagoya University, ³Hamamatsu University School of Medicine,

⁴Kansai University, ⁵Doshisha University, ⁶Saitama Gakuen University)

Key words: meaning of life, sources of meaning, Important Meaning Index (IMI)

目 的

人生の意味については、その構造や構成要素をめぐって多くの研究が蓄積されてきた。とりわけ、意味の経験や感覚の程度を測定する尺度は数多く作成されており、代表的なものとしては、Crumbaugh & Maholick (1964) による Purpose in Life test (PIL) や、Reker (1992) による Life Attitude Profile-Revised (LAP-R) などが用いられてきた。

しかし、Steger, Frazier, Oishi, & Kaler (2006) は、これまでの人生の意味に関する尺度が意味を探索する程度を測定してこなかったことを指摘し、意味の「探求 (search)」と「保有 (presence)」の 2 側面からなる Meaning in Life Questionnaire (MLQ) を開発した。Steger らは、現在までに、この尺度と人生満足度やパーソナリティなどとの関連や、文化差などを精力的に検討しており、現在、人生の意味をこの 2 側面から捉えるアプローチが台頭しつつある。

一方、意味の具体的内容 (意味の源) に関しても、いくつかの尺度が開発されてきている。浦田 (2009) は、意味の源に関する研究知見を収集、再分類し、それらの重要度を測定する Important Meaning Index (IMI) を開発した。しかし、意味の経験や感覚と、意味の源の関連ははまだ詳細な検討がなされておらず、それらを包括的に検討するアプローチが求められる。

そこで、本研究では、意味の探求と保有の 2 側面を、意味の源との関連において詳細に検討すべく、意味の源における追求と実現の程度を測定する尺度 (IMI) を作成し、まずそれらの差と精神的健康との関連を検討する。

方 法

質問紙の構成 浦田 (2009) の Important Meaning Index (IMI) 36 項目それぞれについて、追求と実現の程度の評定を求めた (7 段階評定)。質問紙は、IMI の他、自己アイデンティティ尺度 (榎本, 2008)、Diener, Horwitz, & Emmons (1985) による人生満足尺度 (SWLS) の日本語版 (大石, 2009)、Big Five 尺度 (和田, 1996)、主観的バイタリティ尺度 (福井, 2006)、Steger ら (2006) による人生の意味尺度 (MLQ) の日本語版 (島井・大竹, 2005)、ストレス反応尺度 (田中, 1995) の各尺度で構成されていた。

調査協力者 東海地方の高校生から成人後期 (12 歳～64 歳) の男女 243 名 (男子 96 名, 女子 148 名)。

結 果

IMI の追求 (S) と実現 (P) について、それぞれ「ウェルビーイングと共同性」「自己実現」「自己超越」「現世利益」の 4 つの下位尺度得点を算出した上で、追求の程度から実現の程度を引いた差 (S-P 得点) を下位尺度ごとに求めた。

この S-P 得点と、アイデンティティ、人生満足、Big Five、

人生の意味、バイタリティ、ストレス反応との関連を検討した (Table 1)。Table 1 に示している通り、IMI と各下位尺度の間において、ポジティブな心理特性については負の相関が、ネガティブな心理特性については正の相関が多く見られている。

Table 1 IMI の S-P 得点 (追求-実現得点) と各下位尺度との相関

	ウェルビー イングと共同性	自己実現	自己超越	現世利益
アイデンティティ				
一貫性・連続性・独自性	-.19 **	-.01	-.09	-.14 *
勤勉性	-.16 *	-.02	.00	-.06
自己への信頼	-.24 **	-.22 **	-.14 *	-.25 **
現在の自己投入	-.18 **	-.07	-.10	-.16 *
主体性・自律性	-.23 **	-.07	-.09	-.02
将来展望	-.03	.08	-.02	-.07
時間への信頼	-.06	.06	.04	-.01
他者への信頼親密性	-.14 *	-.10	-.06	-.17 *
社会的役割の取り入れ	-.30 **	-.19 **	-.17 **	-.24 **
自己受容	-.28 **	-.16 *	-.11	-.20 **
人生満足	-.27 **	-.24 **	-.21 **	-.28 **
Big Five				
外向性	.03	.04	.06	.08
情緒不安定性	.34 **	.27 **	.19 **	.18 **
開放性	.02	.07	.09	.08
誠実性	-.25 **	-.19 **	-.10	-.26 **
調和性	-.21 **	-.12	-.18 **	-.16
人生の意味				
意味探求	.30 **	.42 **	.31 **	.33 **
意味保有	-.18 **	-.02	-.01	-.04
バイタリティ				
Vigor	-.15 *	-.01	-.10	-.08
Flexibility	-.15 *	-.09	-.01	-.04
Mental Toughness	-.09	.01	.00	-.03
Activeness	-.09	.04	-.02	-.01
ストレス反応	.33 **	.20 **	.23 **	.25 **

* $p<.05$, ** $p<.01$

考 察

本研究では、意味の源について、追求と実現の両側面から捉えるべく検討を行った。相関分析の結果、追求と実現の差が大きい程、精神的健康が低いという傾向が諸側面で見られている。特に、「ウェルビーイングと共同性」において、追求と実現の差が大きい場合、様々なネガティブな特性と関連しており、意味を追求しているにも関わらず、それを実現できないというギャップが心理的な問題となりうることを示唆している。今回は、紙面の都合上、相関分析のみを掲載しているが、当日報告予定の分散分析においては、追求と実現の 2 側面は、年代が上がるほど差が小さくなるなど、それぞれ特徴的な世代差があることが示されており、今後さらに世代別の検討を詳細に進める必要があろう。